(受託事業)

処理番号	年度計画の記号	受託事業名	担当	備考	頁
3112F-1	2-(1)-①-2)	高野山地区建造物調査業務	奈文研	文化遺産部	298
3112F-2	2-(1)-①-2)	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務（令和３年度契約）	奈文研	文化遺産部	299
3112F-3	2-(1)-①-2)	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務委託（令和４年度契約）	奈文研	文化遺産部	300
3112F-4	2-(1)-①-2)	生駒市内歴史的建造物詳細調査業務	奈文研	文化遺産部	301
3112F-5	2-(1)-①-2)	松江市美保関伝統的建造物群保存対策調査業務委託	奈文研	文化遺産部	302
3132F7-1	2-(1)-③-2)-ｱ	平城京跡左京一条二坊十坪の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	303
3132F7-2	2-(1)-③-2)-ｱ	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	304
3132F7-3	2-(1)-③-2)-ｱ	歴史体験学習館整備に係る埋蔵文化財発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	305
3132F7-4	2-(1)-③-2)-ｱ	名勝法華寺庭園保存整備事業に伴う発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	306
3132F7-5	2-(1)-③-2)-ｱ	法華寺旧境内の発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	307
3132F ｱ-6	2-(1)-③-2)-ｱ	西大寺旧境内住宅新築に伴う発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	308
3132F ｱ-7	2-(1)-③-2)-ｱ	特別史跡藤原宮跡（高殿町個人住宅建築）発掘調査	奈文研	都城発掘調査部（藤原地区）	309
3132F ｲ	2-(1)-③-2)-ｲ	生駒市内須恵器窯跡の調査業務	奈文研	都城発掘調査部 埋蔵文化財センター	310
3133F	2-(1)-③-3)	和束の茶業景観における報告書作成業務	奈文研	文化遺産部	311
3212F-1	2-(2)-①-2)	史跡断夫山古墳地中レーダー探査業務	奈文研	埋蔵文化財センター	312
3212F-2	2-(2)-①-2)	土器（ハソウ）内部の構造解析	奈文研	埋蔵文化財センター	313
3213F-1	2-(2)-①-3)	高知県定福寺所蔵仏像群の年輪年代調査	奈文研	埋蔵文化財センター	314
3213F-2	2-(2)-①-3)	森川如春庵田舎家構成部材の年輪年代調査	奈文研	埋蔵文化財センター	315
3213F-3	2-(2)-①-3)	輪王寺護法天堂及び二荒山神社神輿舎の年輪年代測定	奈文研	埋蔵文化財センター	316
3214F	2-(2)-①-4)	伊川津貝塚出土資料分析業務	奈文研	埋蔵文化財センター	317
3226E-1	2-(2)-②-6)	美術工芸品修理用具等と生産技術保護等③	東文研	保存科学研究センター	318
3226E-2	2-(2)-②-6)	美術工芸品修理用具等と生産技術保護等④	東文研	保存科学研究センター	319
3228F	2-(2)-②-8)	出土鉄製文化財から探る埋蔵環境が超長期腐食機構に及ぼす影響	奈文研	埋蔵文化財センター 都城発掘調査部（平城地区）	320
3229F-1	2-(2)-②-9)	令和4年度国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務	奈文研	埋蔵文化財センター	321
3229F-2	2-(2)-②-9)	令和4年度史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査	奈文研	埋蔵文化財センター	322
3231E-1	2-(2)-②-11)-ｱ	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	東文研	保存科学研究センター	323
3231E-2	2-(2)-②-11)-ｱ	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	東文研	保存科学研究センター	324
3231F ｱ-1	2-(2)-②-11)-ｱ	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務	奈文研	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター	325

3231F ｱ-2	2-(2)-②-11)-ｱ	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務	奈文研	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館	326
3311E	2-(3)-①-1)-ｱ	文化遺産国際協力コンソーシアム事業	東文研	文化遺産国際協力センター	327
3312F ｱ	2-(3)-①-2)-ｱ-(ｱ)	令和4年度文化遺産国際協力拠点交流事業（ウズベキスタンにおける考古遺産の科学的調査に関する技術移転を目的とした拠点交流事業）	奈文研	企画調整部	328
3320G-1	2-(3)-②	令和4年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		329
3320G-2	2-(3)-②	令和4(2022)年度　ユネスコ未来共創プラットフォーム事業（海外展開を行う草の根のユネスコ活動）「持続可能なまちづくりにおける無形文化遺産の役割に関する国際交流事業」事業	アジア太平洋無形文化遺産研究センター		330
3521F	2-(5)-②-1)	明日香村西橘遺跡出土木製品の保存処理等を経ての総合的研究	奈文研	都城発掘調査部（藤原地区）	331
3523F	2-(5)-②-3)	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開並びにその地質考古学的解析	奈文研	埋蔵文化財センター	332
3531F-1	2-(5)-③-1)	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託	奈文研	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	333
3531F-2	2-(5)-③-1)	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務及び解説案内等業務	奈文研	企画調整部	334
3531F-3	2-(5)-③-1)	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務	奈文研	研究支援推進部	335
3630	2-(6)-③-2)	被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務	文化財防災センター		336
3650	2-(6)-⑤-2)	令和4年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務	文化財防災センター		337

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	高野山建造物調査業務(①-2))		
【委託者】	和歌山県高野町	【受託経費】	4,791 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室長）
【スタッフ】鈴木智大（都城発掘調査部主任研究員)、福嶋啓人（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室研究員)、目黒新悟（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員)、山崎有生（同)、髙野麗（同）			

【年度実績概要】

和歌山県高野町からの受託研究業務として、高野町内に所在する歴史的建造物の悉皆調査及び個別調査を継続して行っている。

4 年度は、これまでの悉皆調査及び個別の調査成果に基づき、特に重要と考えられる高野山の建築について、高精細写真撮影及び断面図作成を実施した。高精細写真撮影を実施した建物は 40 棟、断面図作成を実施した建物は 36 棟である。

4 か年の調査成果については、5 年 3 月に報告書として刊行した。



金剛峯寺大主殿（和歌山県）外観



壇上伽藍御影堂（和歌山県）外観

【実績値】

調査回数：6 回（延べ 13 日）
調査棟数：36 棟
高精細写真撮影棟数：40 棟
野帳枚数：80 枚
写真カット数：約 1,800 カット
調査研究刊行物：1 件『高野町の歴史的建造物』(5 年 3 月)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務（令和 3 年度契約）（①-2)）		
【委託者】	新潟県佐渡市	【受託経費】	2,292 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室長）

【スタッフ】島田敏男（建造物研究室特任研究員)、福嶋啓人（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室研究員)、目黒新悟（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員）他 1 名

【年度実績概要】

本事業は、3 年 4 月から事業を開始したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、契約期間を 4 年 6 月 21 日まで延長し、4 年度に完了したものである。

小木町は、近世に佐渡金山の金銀の集積地として開港した町で、寛文 12 年（1672）以後は、北前船の寄港地として繁栄した。現在の町並みは明治期の大火以後に建てられた建築が多数とみられ、伝統的な木造の町家建築が建ち並ぶ。

本調査は、2 か年計画の 1 年目にあたり、対象地区内の建造物の悉皆調査及び、悉皆調査によって年代的、技法的、意匠的に特徴の認められる物件について、詳細調査を行った。悉皆調査では、地区の地図内の建造物全てについて、建築形態と目視による建築年代の判定を行い、写真を撮影し、リストとプロット図を作成した。詳細調査では、各物件について、調書作成、実測図面作成、写真撮影、資料調査等を行った。

本調査は 2 か年計画の 2 年目として 4 年度も受託契約を行い、調査成果については、4 年度契約事業において刊行した。



奥州屋（佐渡市小木町）外観



清水家住宅（佐渡市小木町）外観

【実績値】

調査回数：4 回（延べ 16 日）
調査棟数：約 1,300 棟（悉皆調査)、27 棟（詳細調査）
野帳枚数：180 枚（悉皆調査)、126 枚（詳細調査）
写真カット数：約 12,500 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査業務委託（令和４年度契約）（①-2)）		
【委託者】	新潟県佐渡市	【受託経費】	4,762 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室長）

【スタッフ】島田敏男（建造物研究室特任研究員)、福嶋啓人（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室研究員)、山崎有生（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員)、髙野麗（同上）

【年度実績概要】

佐渡市小木町からの受託調査として、小木町の伝統的建造物群保存対策調査を行った。

小木町は、近世に佐渡金山の金銀の集積地として開港した町で、寛文 12 年（1672）以後は、北前船の寄港地として繁栄した。現在の町並みは明治期の大火以後に建てられた建築が多数とみられ、伝統的な木造の町家建築が建ち並ぶ。

本調査は、2 か年計画の 2 年目にあたり、3 年度に行った悉皆調査によって年代的、技法的、意匠的に特徴の認められる物件について、3 年度に引き続き詳細調査を行った。詳細調査では、各物件について、調書作成、実測図面作成、写真撮影、資料調査等を行った。その他、工作物調査、祭礼調査を行い、報告書に掲載する高精細写真の撮影も行った。また、佐渡市の行う住民説明会において調査成果を報告した。

なお、調査成果については、3 月に報告書を刊行した。



村川家住宅主屋（佐渡市小木町）外観



安隆寺本堂（佐渡市小木町）外観

【実績値】

調査回数：5 回（延べ 20 日）
調査棟数：23 棟（詳細調査）
野帳枚数：151 枚（詳細調査）
写真カット数：約 6,000 カット
調査研究刊行物：1 件　『佐渡市小木町伝統的建造物群保存対策調査報告書』(5 年 3 月刊行)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	生駒市内歴史的建造物詳細調査業務(①-2))		
【委託者】	奈良県生駒市	【受託経費】	127 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室室長）

【スタッフ】目黒新悟（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員）、山崎有生（同）、高野麗（同）、前川歩（畿央大学講師・客員研究員）

【年度実績概要】

生駒市史編纂のための事前調査として、3 年度より継続して行った。

4 年度は、生駒市内の過去の建造物調査の資料収集を行った。また、生駒市内の既指定文化財建造物（国重要文化財、登録文化財等）について、詳細調査を行った。調査を行った建物は、9 件である。それぞれの建物ついて、調書の作成、写真撮影、実測調査を行った。

なお、調査成果は 8 年度に生駒市史の一部として執筆する予定である。



旧生駒町役場（生駒ふるさとミュージアム）外観

【実績値】

調査回数：6 回
調査棟数：25 棟
野帳枚数：74 枚
写真カット数：約 2,200 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3112F-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	松江市美保関伝統的建造物群保存対策調査業務委託(①-2))		
【委託者】	島根県松江市	【受託経費】	2,069 千円
【担当部課】	文化遺産部　建造物研究室	【事業責任者】	大林　潤（建造物研究室長）

【スタッフ】島田敏男（建造物研究室特任研究員)、福嶋啓人（都城発掘調査部飛鳥・藤原地区遺構研究室研究員)、目黒新悟（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員)、山崎有生（都城発掘調査部平城地区遺構研究室研究員）

【年度実績概要】

松江市からの受託調査として、松江市美保関町美保関の伝統的建造物群保存対策調査を行った。

美保関町美保関は、漁業を生業として栄えた港町で、北前船の寄港地として繁栄した。現在の町並みは江戸時代の地割を踏襲し、近世以降の伝統的な木造の町家建築が建ち並ぶ。

本調査は、2 か年計画の 1 年目にあたり、4 年度は悉皆調査と、悉皆調査によって年代的、技法的、意匠的に特徴の認められる物件について、詳細調査を行った。悉皆調査では、地区の地図内の建造物全てについて、建築形態と目視による建築年代の判定を行い、写真を撮影し、リストとプロット図を作成した。詳細調査では、各物件について、調書作成、実測図面作成、写真撮影、資料調査等を行った。

本調査は 5 年度も引き続き継続する予定であり、調査成果については、5 年度に報告書を刊行する予定である。



濱延屋　全景



月奈離宮　全景

【実績値】

調査回数：6 回（延べ 17 日）
調査棟数：400 棟（悉皆調査)、34 棟（詳細調査）
野帳枚数：90 枚（悉皆調査)、170 枚（詳細調査）
写真カット数：約 22,000 カット

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	平城京跡左京一条二坊十坪の発掘調査（647 次）（③-2)-ｱ)		
【委託者】	個人	【受託経費】	1,633 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】【スタッフ】
丹羽崇史・桑田訓也(同部平城地区主任研究員)、山崎有生(同部平城地区遺構研究室研究員)、村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員）、上中央子(同センター元客員研究員)、飯田ゆりあ(企画調整部写真室主任)

【年度実績概要】
・調査経緯
　共同住宅建設に伴う事前の発掘調査
・調査区の位置
　平城京跡左京一条二坊十坪・一条条間路
・調査面積
　70 ㎡
・調査期間
　4 月 4 日～28 日
・調査概要
　地表下約 1.3ｍで遺構を検出した。その後、東西溝状落込を部分的に掘り下げ、落込の堆積状況を観察した。
・検出遺構
　東西溝 1 条、東西溝状落込 1、東西杭列 2 条
・出土遺物
　埴輪、陶棺、土師器・須恵器・緑釉陶器・陶磁器など土器類、瓦塼類、大型木製品等
・調査所見
　調査区北半で幅約 6.3m、深さ約 1ｍの東西方向の素掘溝を検出した。その位置から平成 18 年度の第 417 次、平成 19 年度の第 426 次で検出した溝の延長部分とみられ、一条条間路北側溝と考えられる。埋土からは平安時代の遺物が出土した。東西溝の下部からは大規模な東西溝状落込を確認した。この落込には黒色土層が堆積し、その上は橙褐色土によって整地される。黒色土層の上部からは、奈良時代及び古墳時代の遺物が出土した。法華寺の北方で大規模な造成がされていることを確認した。


調査区全景（北東から）

【実績値】
論文等数 1 件：「平城京左京一条二坊十坪・一条条間路の発掘調査（647 次)」『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月予定)
(参考値)
出土遺物　：埴輪・陶棺・土師器・須恵器・緑釉陶器・陶磁器など 9 箱、軒丸瓦 5 点、軒平瓦 6 点、丸平瓦 13 箱、木質遺物 7 バット、大型木製品（粗朶 1 本、木杭 1 本)、種子 1 バット等
記録作成数：実測図 5 枚(A2 判)、撮影写真 510 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	興福寺東金堂院伽藍整備に伴う発掘調査（649 次）（③-2)-ｱ)		
【委託者】	宗教法人興福寺	【受託経費】	8,901 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】
和田一之輔(都城発掘調査部平城地区考古第一研究室長)、目黒新悟(同部平城地区遺構研究室研究員)、垣中健志(同部平城地区史料研究室研究員)、金田明大（埋蔵文化財センター長)、脇谷草一郎(同センター保存修復科学研究室長)、村田泰輔(同センター主任研究員)、山口欧志(同センター遺跡・調査技術研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ(同写真室主任)

【年度実績概要】

・調査経緯
　興福寺第 1 期境内整備事業に伴う東金堂院の発掘調査
・調査区の位置
　興福寺東金堂院北面回廊
・調査面積
　335 ㎡（南北 16m×東西 28mのうち支障物を除く）
・調査期間
　7 月 6 日～11 月 18 日
・調査概要
　東金堂院北面回廊の規模と構造を明らかにし、東金堂院の規模を把握することを目的として調査を実施した。地表下約 1mで遺構を検出した。
・検出遺構
　東金堂院北面回廊基壇（礎石 7 基、据付穴・抜取穴 6 基)、基壇に伴う雨落溝 2 条、東西溝 2 条、南北溝 6 条、東西石組列 1 条、道路遺構 1 条、道路側溝 1 条、土坑 3 基、小穴 8 基
・出土遺物
　奈良時代から近世までの土器・陶磁器類及び瓦塼類並びに金属製品等
・調査所見
　東金堂院北面回廊の建物と基壇の規模・構造が判明した。北面回廊は梁行 1 間の単廊で、桁行 7 間分を検出した。回廊柱間寸法は桁行約 3.4m（11.5 尺）等間、梁行約 3.5m（12 尺）である。基壇規模は、幅約 6.3m（21 尺)、高さは北辺が 0.5m、南辺が 0.1m、基壇の出は南北とも約 1.4m。基壇を貫通する暗渠を設けて、東金堂院の内庭部から回廊の北へ排水していたことが判明した。
　東金堂院北面回廊の再建と変遷の状況が明らかになった。礎石は奈良時代の創建当初とほぼ同じ位置で据え直されたことから、建物は創建当初の位置と規模を踏襲して再建された。今回検出した基壇北辺の乱石積基壇外装は、奈良時代の創建当初の位置を踏襲しているが、平安時代の再建されたものである。
　本調査で明らかになった回廊の構造と規模は、過去の調査で検出した北面回廊と整合することから、東金堂院北面回廊が従来の復元案よりも東へ延び、東西 100m以上となることが確定し、東金堂院の規模が従来よりも大きくなることが判明した。



調査区全景（北から）

【実績値】
論文等数：1 件「興福寺東金堂院の調査―第 649 次」『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月刊行予定)
(参考値)
出土遺物　：土器類（須恵器・土師器・瓦器・中近世陶磁器：整理用コンテナ 25 箱)、軒丸瓦 61 点、軒平瓦 66 点、雑瓦 388 箱、金属器 11 点、銅銭 2 点、金床石 2 点、鉄滓 1 点、窯壁 260g、凝灰岩 700g、安山岩 800g、木炭 27g 等
記録作成数：実測図 21 枚(A2 判)、撮影写真 2,457 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	歴史体験学習館整備に係る埋蔵文化財発掘調査（650 次）（③-2)-ｱ)		
【委託者】	奈良県	【受託経費】	23,314 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】馬場基(都城発掘調査部平城地区史料研究室長)、川畑純(同部平城地区主任研究員)、浦蓉子(同部平城地区考古第一研究室研究員)、髙野麗(同部平城地区遺構研究室研究員)、道上祥武(同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ(同部写真室主任)、鎌倉綾(同部写真室技能補佐員)

【年度実績概要】

・調査経緯
　奈良県歴史体験学習館建設に伴う発掘調査
・調査区の位置
　平城京左京三条一坊二坪
・調査面積
　北区（南北 25m×東西 19m）475 ㎡、南区（南北 9.94m×東西 21.28）211 ㎡　計 686 ㎡
・調査期間
　9 月 26 日～5 年 1 月 30 日
・調査概要
　調査区は北区と南区の 2 箇所に設定し、地表下約 80 ㎝で遺構を検出した。
・検出遺構
　北区：掘立柱建物 1 棟、南北柱穴列 3 条、東西柱穴列 1 条、蛇行する溝状遺構と花崗岩数点
　南区：東西溝 5 条、南北溝 5 条、掘立柱建物 1 棟、南北柱穴列 1 条
・出土遺物
　古代の土器、瓦塼類等
・調査所見
　北区では東半で、調査区を縦断する南北柱穴列を 9 間分検出した。柱間寸法は 2.4m（8 尺）等間。この柱穴列は坪を東西に 3 分割する分割線に近い位置で検出した。なお、北区は 5 年度に西方に調査区を拡張し、継続して詳細な調査・検討を行う予定であるため、この地区の遺構の評価については 5 年度の成果を待ちたい。
　南区では、調査区東端で東西 3 間、南北 3 間以上の南北棟掘立柱建物を 1 棟検出した。
　以上、この坪における土地利用の状況を考える上で重要な資料を提供した。



南区全景（東から）

【実績値】

論文等数：1 件「平城京左京三条一坊二坪の調査－第 650 次」『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月予定)
(参考値)
出土遺物　：土器類 38 箱、瓦塼類 42 箱、冶金関連遺物 37 点
記録作成数：実測図 13 枚(A2 判)、撮影写真 684 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-4

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	名勝法華寺庭園保存整備事業に伴う発掘調査（651 次）（③-2)-ｱ)		
【委託者】	宗教法人光明宗法華寺	【受託経費】	328 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】馬場基（都城発掘調査部平城地区史料研究室長)、川畑純（同部平城地区主任研究員)、浦蓉子（同部平城地区考古第一研究室研究員)、道上祥武（同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員)、髙野麗（同部平城地区遺構研究室研究員)、飯田ゆりあ(企画調整部写真室主任)

【年度実績概要】

・調査経緯
　名勝法華寺庭園保存整備事業に伴う発掘調査
・調査区の位置
　名勝法華寺庭園・史跡法華寺旧境内
・調査面積
　10.4 ㎡
・調査期間
　10 月 11 日～19 日
・調査概要
　現地表下約 1.3ｍで近世の整地土とみられる層を確認した。また、当該整地土が東方へ向かって下がっていくことを確認し、旧地形の復元に関わる資料を得た。
・検出遺構
　特になし
・出土遺物
　古代～近世の土器、瓦磚類等
・調査所見
　近現代の旧表土以下の遺構面の検出は、調査区南辺部で幅約 50 ㎝、東辺部で幅約 60 ㎝の範囲で部分的に行った。近世の整地土とみられる層を確認したが、明確な遺構は検出できなかった。調査の結果、調査地の現地表面は、近現代の造成により 1ｍ近く盛土され、大きく改変されていることが明らかとなった。



調査区全景（北から）

【実績値】
（参考値）
出土遺物　：金属器 4 点、羽口 1 点、るつぼ 1 点、須恵器・土師器・瓦質土器・近世陶磁器などコンテナ 1 箱分、軒丸瓦 5 点・軒平瓦 2 点、丸瓦・平瓦など整理用コンテナ 13 箱分、木炭 2 点等
記録作成数：実測図 1 枚（A2 判)、撮影写真 72 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-5

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	法華寺旧境内の発掘調査（653 次）（③-2)-ｱ)		
【委託者】	個人	【受託経費】	2,200 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】馬場基(都城発掘調査部平城地区史料研究室長)、川畑純(同部平城地区主任研究員)、浦蓉子(同部平城地区考古第一研究室研究員)、髙野麗(同部平城地区遺構研究室研究員)、道上祥武(同部飛鳥・藤原地区考古第三研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ(同部写真室主任)、鎌倉綾(同部写真室技能補佐員)

【年度実績概要】

・調査経緯
　宅地造成に伴う発掘調査
・調査区の位置
　法華寺旧境内・海龍王寺旧境内
・調査面積
　262.6 ㎡
・検出遺構
　南北溝 3 条、建物 2 棟、柱穴列 3 条等
・出土遺物
　瓦塼類、須恵器等
・調査所見
　南北溝 3 条のうち、最も古い溝は平安時代以前に遡るとみられ、法華寺と海龍王寺の境界を画す溝の可能性が想定できる。
　南北溝の東側では、建物等の顕著な遺構は確認できず、南北溝の西側では、東西棟の掘立柱建物が 2 棟見つかった。南北溝の東西で土地の利用の状況が大きく異なっていたことがわかる。
　南北溝の西側で検出した 2 棟の掘立柱建物のうち 1 棟は、桁行 6 間以上、梁行 2 間で南北に廂を持つ大型建物であることを確認した。柱穴の断割調査の結果、柱の根固めを入念に行うなど相応の規模と格をもった建物であったと考えられる。
　以上、本調査区の古代における土地利用を考える上で重要な資料を提供した。



調査区全景（西から 再拡張前）

【実績値】
論文等数：1 件「法華寺旧境内の発掘調査－第 653 次」『奈良文化財研究所発掘調査報告 2023』(5 年 12 月刊行予定)
（参考値）
出土遺物：瓦塼類 49 箱、土器 6 箱、木器等 1 箱
記録作成数：実測図 15 枚（A2 判)、撮影写真 249 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-6

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	西大寺旧境内住宅新築に伴う発掘調査（654 次）(2-(1)-③-2)-ｱ)		
【委託者】	個人	【受託経費】	2,591 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】西田紀子・小田裕樹・山本祥隆（同部平城地区主任研究員）、田中龍一（同部平城地区考古第三研究室研究員）、中村一郎（企画調整部写真室専門職員）・飯田ゆりあ（同部写真室主任）

【年度実績概要】

・調査経緯
　共同集合住宅建設に伴う発掘調査

・調査区の位置
　西大寺旧境内（西大寺小塔院）

・調査面積
　146 ㎡

・調査期間
　5 年 1 月 11 日～5 年 2 月 3 日

・調査概要
　現地表下約 0.4～0.7ｍで奈良時代の整地土とみられる層を確認した。また、中世の井戸や土坑、時期不明の柵列などを検出した。

・検出遺構
　井戸 2 基、土坑 3 基、東西柵列 2 基、柱穴 1 基など

・出土遺物
　土器類、瓦類、木製品（柱根、礎板など）、金属製品、石製品など

・調査所見
　調査区中央部を中心に、奈良時代の整地土が広く遺存していることが判明した。一方で、古代にさかのぼる可能性のある遺構はごくわずかであった。本調査地では、古代よりむしろ中世の遺構が相対的に顕著で、井戸や土坑、落込みを各所で確認した。



写真 1　調査区全景写真（北東から）



写真 2　拡張区全景写真（北東から）

【実績値】
（参考値）
出土遺物　：土器類（須恵器・土師器・瓦器など）5 箱、軒丸瓦 7 点、軒平瓦 3 点、瓦片 32 袋、木器・木製品（柱根・礎板など）26 点、金属 3 点、銭 1 点、石製品 2 点、砥石 2 点、近現代ガラス装飾品 1 点、自然遺物 1 バット
記録作成数：実測図 10 枚（A2 判）、撮影写真 1,209 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F ｱ-7

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	特別史跡藤原宮跡（高殿町個人住宅建築）発掘調査(③-2)-ｱ)		
【委託者】	奈良県橿原市	【受託経費】	411 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原地区）	【事業責任者】	副部長　清野孝之

【スタッフ】
岩永玲（考古第三研究室研究員)、廣瀬覚（考古第一研究室長)、鈴木智大（主任研究員)、山藤正敏（主任研究員)、栗山雅夫（企画調整部写真室主任)

【年度実績概要】

○藤原宮跡東方官衙南地区（第 211-1 次）

・調査地：　橿原市高殿町

・調査面積：16 ㎡

・調査期間：　4 月 18 日～4 月 20 日

○調査成果

・本調査は、特別史跡藤原宮跡内における個人住宅建て替えに伴う発掘調査である。調査地は藤原宮東方官衙南地区にあたり、東二坊坊間路東側溝の想定位置から東に約 4m の位置にある。藤原宮期の官衙関連遺構のほか、調査区の北方約 26m の位置で確認されている中世の南北溝の南延長部分の検出が見込まれた。

・基本層序は、上から順に①表土・盛土（10-60 ㎝)、②青灰色シルト・粘質土（20-90 ㎝、近現代の埋立土)、③灰色砂粗砂（20-40 ㎝、自然堆積か）である。調査区全体に近現代の遺物を含む土砂が厚く堆積し、掘削深度内において近世以前の遺構は存在しなかった。調査区の南方で行われた飛鳥藤原第　188-7 次・197-5 次調査では標高 74.6～75.4m にかけて自然流路由来の堆積を確認している。上記③はその延長部分にあたる可能性がある。

・調査の結果、調査区周辺は近現代に約 90 ㎝以上の埋め立てを行っていることが判明し、工事掘削深度内では顕著な遺構は確認できなかった。高殿集落南半における既往の調査では、標高 74.0～75.4m で藤原宮期の遺構を検出している。上述の基本層序③の上面の標高は 74.5-74.6m であり、本調査区周辺では藤原宮期の遺構面は削平を受けたか、埋め立て以前の旧地形が周辺よりも低く掘削深度が遺構面に達していない可能性がある。



調査区全景（南西から）

【実績値】

出土遺物：土器コンテナ 1 箱（古代～近現代)、瓦整理用コンテナ 1 箱（古代～近現代)、ガラス片バット 1 箱

記録作成数：遺構実測図 1 枚、土層断面図 1 枚、デジタル写真（4×5）12 枚、デジタルメモ写真 87 枚

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3132F イ

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	生駒市内須恵器窯跡の調査業務(③-2)-イ)		
【委託者】	奈良県生駒市	【受託経費】	735 千円
【担当部課】	都城発掘調査部・埋蔵文化財センター	【事業責任者】	箱崎和久（都城発掘調査部長）

【スタッフ】金田明大（埋蔵文化財センター長）・神野恵（都城発掘調査部平城地区考古第二研究室長）・今井晃樹（同部平城地区考古第三研究室長）・森川実（同部飛鳥・藤原地区考古第二研究室長）・丹羽崇史・小田裕樹（同部平城地区主任研究員）・若杉智宏（同部飛鳥・藤原地区主任研究員）・田中龍一（同部平城地区考古第三研究室研究員）・玉田芳英（都城発掘調査部客員研究員）

【年度実績概要】

生駒市市史編纂事業に先立ち、生駒市内での須恵器生産の実態及び平城宮・京への須恵器供給の様相を明らかにすべく、生駒市所蔵資料の調査、研究を進めている。

・遺跡の現地踏査

4 年度は、遺跡の現地踏査を行い、窯跡の位置の確認を現地で実施した。生駒市域では須恵器生産のみならず、瓦窯の存在が分布調査や採集資料などから推定されている。4 月に行った踏査では、生駒市東菜畑地区の住民の方が採集し保管していた完形の丸瓦を実見した。須恵器窯については、すでに発掘調査がなされた生駒北方窯、金毘羅窯、長命寺北窯、妙心寺窯跡などの窯跡について位置と現況を踏査で確認した。

・遺物の調査

東菜畑地区の住民が採集した丸瓦を 12 月に生駒市が住民より借り受け、受託調査として当研究所にて詳細な実測、拓本、写真撮影など記録作成を行った。11 月には、生駒北方窯、金毘羅窯などの出土品の調査、写真や実測等の記録化を進めるとともに、奈文研と生駒市が所蔵している採集資料の精査、研究などを継続的に行っている。



4 月 12 日　長命寺窯跡付近の踏査の様子

【実績値】

（参考値）

・遺跡踏査：1 回

4 月 12 日於生駒市

・研究会発表等：1 件

神野恵「考古資料がつなぐ平城京と生駒」(「生駒市史関連講演会　遺跡は語る　生駒の古代」5 年 2 月 19 日　生駒市図書会館 3 階市民ホール)

・実測図 40 点、写真約 30 枚、三次元計測 2 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3133F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(1)新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究		
【事業名称】	和束の茶業景観における報告書作成業務(2-(1)-③-3))		
【委託者】	京都府和束町	【受託経費】	2,234 千円
【担当部課】	文化遺産部	【事業責任者】	景観研究室長　中島義晴
【スタッフ】○中島義晴（景観研究室長)、惠谷浩子（景観研究室研究員)、竹内祥一朗（飛鳥資料館学芸室研究員)			

【年度実績概要】

・調査報告書作成のため、調査成果の取りまとめや原稿の校正、図面の作成を行った。
・調査報告書の編集を行った。
・調査や委員会等の実施のため、町との協議をメールや電話で随時行った。
・現地調査を計 3 回実施した。


和束町原山の茶園


和束町白栖の集落

【実績値】
委員会報告：3 回
現地調査：3 回
デジタル写真：250 点

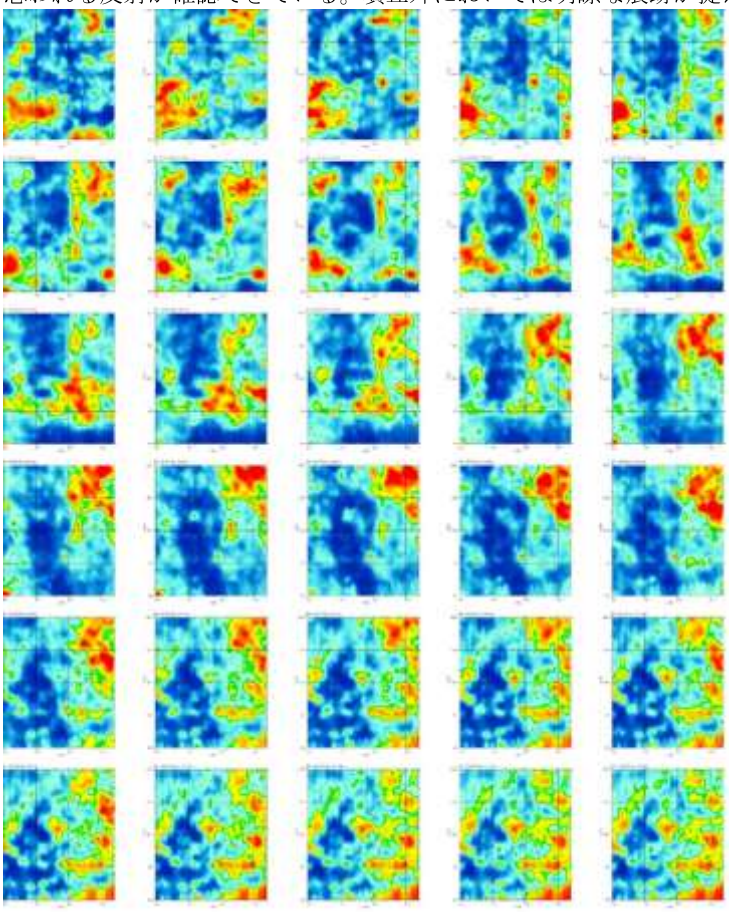
【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3212F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	史跡断夫山古墳地中レーダー探査業務(①-2))		
【委託者】	愛知県	【受託経費】	952 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大
【スタッフ】山口欧志（遺跡・調査技術研究室研究員）			

断夫山古墳は東海地方最大の古墳時代後期の前方後円墳であり、近年、史跡の追加指定や詳細な内容の情報収集を目的とした研究が進められている。今回は墳丘及び周辺施設の非破壊的な調査による情報収集を目的として地中レーダー探査を実施した。

この結果、墳丘内においては、主体部の可能性がある反射が後円部で捉えられた。また、前方部や造出部分では葺石と思われる反射が確認できている。墳丘外においては明瞭な痕跡が捉えられておらず、より詳細な検討が必要となる。



後円部地中レーダー探査成果

【実績値】
探査地点　9 地点　探査回数　13 件（後円部及び墳丘西側を異なるアンテナ・機器で比較用に探査)。

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3212F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	土器（ハソウ）内部の構造解析(①-2))		
【委託者】	株式会社パレオ・ラボ	【受託経費】	118 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大
【スタッフ】村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員）			

【年度実績概要】

株式会社パレオ・ラボから委託さ入れた「土器（ハソウ)」(以下、被検体という。）について、被検体の内容物や製作技法について明らかにするため、当研究所の所有する高エネルギーX 線ＣＴ（HiXCT-1M-SP）を用いて撮像し、3 次元構造解析を行った。3 次元構造解析にあたっては、CT 撮像によって得られたコンピューター断層画像を ExFactVR2.1（日本ビジュアルサイエンス）を用いて積層計算し、立体構造物の作成を行った。被検体の X 線透過・吸収率は、16bit（65,536 諧調）グレーの輝度値として表現され、3 次元構造解析に際し、この輝度値に任意の色調を与えて性状を評価・識別した。

先行する分析（株式会社パレオ・ラボ）により、被検体の内容物に漆が含まれていることが明らかとなっているが、本解析の結果、内容物は少なくとも 2 物質以上によって構成されていることが明らかとなった（図 1)。このうち、赤色～黄色で抽出した部分が、粒子径として少なくとも長軸径が 0.1mm 以下であり、漆と推定される。同質の物質の一部は、土器内部壁面の付着物として分布する。内容物のうち図左方にみられる白色～灰色で抽出した部分は、密度の高い白色部の長軸径が 2～6mm 程度、灰色部の長軸径が 4～12mm 程度の細礫～中礫程度の塊状構造の集積を示す。前述の漆と考えられる物質は、これらの粒子を被覆するように堆積する。

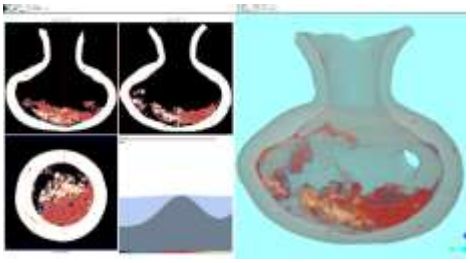


図 1　被検体の内部構造

一方、被検体の構造（図 2）についてみると、本体頸部から頸部（図中 A）と胴体部（図中 B）で胎土の密度が明確に異なる。この密度差に着目して被検体の断層像を観察すると、矢印で示す頸部の付近に空隙が分布する傾向が観察された（図 3)。今回、観察に用いた HiXCT-1M-SP の観察解像度では、この空隙の分布を明確にとらえるには不十分ではあるが、被検体の作製技法において以下の 2 点が推定された。

1）被検体の頸部と胴体部は別の部品によって構成さ入れている。

2）頸部と胴体部の空隙位置からすると、被検体は胴体部に対し頸部を張り付けるようにして作製された可能性がある。

より詳細な構造を明らかにするためには、改めてマイクロフォーカス X 線 CT などでの観察が必要となる。

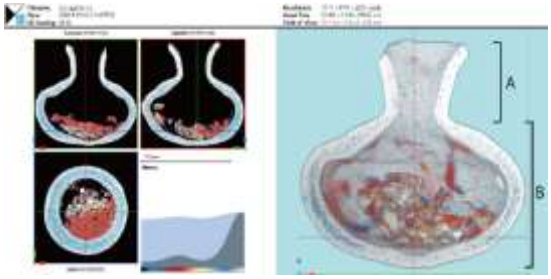


図 2　被検体の胎土密度分布

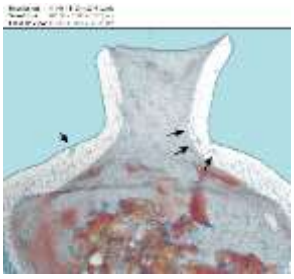


図 3　空隙部分の分布

【実績値】

村田泰輔『X 線 CT を用いた漆容器土器資料の撮像と立体構造データ作成受託事業完了報告書』(5 年 2 月 14 日）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	高知県定福寺所蔵仏像群の年輪年代調査(①-3))		
【委託者】	定福寺	【受託経費】	436 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	金田明大（埋蔵文化財センター長）

【スタッフ】
星野安治（年代学研究室長）

【年度実績概要】

・高知県定福寺が所蔵する仏像・神像などの木彫像群について、年輪年代調査を実施した。この調査は、定福寺が 5 年に開創 1300 年を迎えるのにあわせて行ったものである。

・その結果、南北朝時代の作と考えられる木造聖徳太子立像について、最外層の年代が 1262 年、また、劣化が著しい神像群について 12 世紀のものであることが示唆される年輪年代が特定された。



定福寺における調査風景

【実績値】
・調査対象点数：26 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	森川如春庵田舎家構成部材の年輪年代調査(①-3))		
【委託者】	覚王山日泰寺・一般財団法人 R-INE 財団森川如春庵顕彰会	【受託経費】	627 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	金田明大（埋蔵文化財センター長）

【スタッフ】
星野安治（年代学研究室長）

【年度実績概要】

森川如春庵田舎家は、愛知県葉栗郡（現在の一宮市葉栗地区）の豪農今井家の住宅を、森川勘一郎氏が名古屋市内に茶室として移築したもので、茶室として改造されているものの、江戸時代以前か江戸時代初頭頃の古い農家の形式を残す貴重な建造物とされている。現在、覚王山日泰寺境内に再建が計画されているが、それに先立ち、保管されていた当該建造物部材の年輪年代調査を実施した。

その結果、9 点の部材について年輪年代を特定した。そのうち最も新しいものとして、辺材が残存し、最外層の年代が 1631 年の柱材が見出され，本建造物が 17 世紀中～後期頃に建てられたものであることが示唆された。



年輪年代が特定された柱材

【実績値】
・調査対象点数：18 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3213F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	輪王寺護法天堂及び二荒山神社神輿舎の年輪年代測定(①-3))		
【委託者】	公益財団法人日光社寺文化財保存会	【受託経費】	392 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	金田明大（埋蔵文化財センター長）

【スタッフ】
星野安治（年代学研究室長）

【年度実績概要】

保存修理が行われている輪王寺護法天堂及び二荒山神社神輿舎の年輪年代調査を実施した。

輪王寺護法天堂では、1633 年に伐採された部材を見出し、本建造物の建築年代に資する年輪年代測定成果が得られた。

二荒山神社神輿舎では、辺材が残存する部材の最外層の年代が 1611 年と特定され、元和頃と考えられている建造物的見解と整合的な年輪年代測定成果が得られた。



二荒山神社神輿舎における調査風景

【実績値】

調査対象点数
・輪王寺護法天堂：114 点
・二荒山神社神輿舎：46 点

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3214F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	伊川津貝塚出土資料分析業務(①-4))		
【委託者】	愛知県田原市	【受託経費】	400 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	環境考古学研究室長　山崎健
【スタッフ】			

【年度実績概要】

○愛知県田原市に所在する伊川津貝塚（縄文時代晩期）から出土した動物遺存体の分析を行った。4 年度は現場取り上げ資料、篩別資料（3㎜ メッシュ、1㎜ メッシュ）の分析を行い、合計で 32,721 点を同定した。

○出土資料の同定結果

貝類はアサリとスガイが最も多く、次いでオニアサリ、ハマグリ、ウミニナ科、マガキ、オオノガイなどが含まれていた。魚類はフグ科やニシン科が多く見られ、クロダイ属、スズキ属、カサゴ亜目、アジ科、ウミタナゴ科なども確認された。哺乳類はイノシシ、ニホンジカ、タヌキ、ネズミ科などを同定した。その他に爬虫類ではヘビ亜目が含まれていた。



同定作業風景

【実績値】
分析点数：32,721 点

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3226E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	美工品修理用具等と生産技術保護等③ (②-6)		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	9,550 千円
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	修復材料研究室長　早川典子

【スタッフ】
江村知子（文化財情報資料部部長)、前原恵美（無形遺産部)、菊池理予（無形遺産部)、倉島玲央（保存科学研究センター研究員）ほか

【年度実績概要】
本事業では美術工芸品の修理材料及びその生産・製造に用いる用具の原材料について、それらを安定的に供給し続ける上で見られる現況の課題（生産量・流通体制・品質など）の調査を行い、調査結果に基づき具体的な支援策を実施するための枠組み作成を検討する。今後の安定的確保の懸念される材料・用具について、現状の製造方法の記録と、その使用の必要性に関する科学的な裏付けを行う。具体的には以下の調査を遂行した。

1)　装潢文化財に用いる修理用和紙の生産方法に関する記録と使用材料の科学的分析・今後の安定的保存方法の研究
和紙に用いるネリ材料の保存方法に関する調査研究を遂行した。
昨年まで宇陀紙の原料であるノリウツギの確保が懸念されていたが、標津町にて採取が開始され、確保の見通しが立った状況である。しかし、標津町では従来使用してきたホルマリン同封による保存方法が難色を示されているため、冷凍による保管方法を開始した。しかし、冷凍したノリウツギを他の産地で加熱抽出したところ、従来はなかった着色が確認され、この原因解明調査をおこなった。分析により、タンニン酸による影響が強く示唆された。また、関連して日本の他の産地でノリウツギを使用している紙生産地での、ノリウツギ使用方法について現地調査を行なった。
ノリウツギより多く使用されるネリであるトロロアオイについても、冷凍方法など薬剤を使用しない方法について、比較実験を開始した。

2)　彫刻・木質文化財の修理に用いる刃物の製造方法・使用方法に関する記録作成。
彫刻刃物の生産者は全国的にごく少数になっており、また、最も評価の高い生産者が既に廃業を確定していたため喫緊の案件であった。
彫刻刃物の生産方法について記録した動画を用いて、映像の編集を行い、現在の記録とした。併せて、聞き取り調査の編集も行なった。

3)　修理技術者（特に工芸）への実態調査等
工芸分野のうち、4 年度は漆芸品に関する実態調査を行なった。各修理工房にて、現在使用している材料・用具の調査、また、今後の確保が懸念される用具・材料について情報を収集した。
・大西漆芸修復スタジオ　（11 月 18 日）
・小西美術工藝社（5 年 1 月 10 日）
・目白漆芸文化財研究所（5 年 1 月 10 日）
・北村繁氏（5 年 1 月 26 日）


彫刻刃物作製の記録映像編集風景

また、本事業の委員として本事業メンバーと建石センター長が 5 月 23 日及び 5 年 2 月 28 日の委員会に出席した。

【実績値】

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3226E-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	美工品修理用具等と生産技術保護等④ (②-6)		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	4,410 千円
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	修復材料研究室長　早川典子

【スタッフ】
江村知子（文化財情報資料部部長)、前原恵美（無形遺産部)、菊池理予（無形遺産部)、倉島玲央（保存科学研究センター研究員）ほか

【年度実績概要】
本事業では美術工芸品の修理材料及びその生産・製造に用いる用具の原材料について、それらを安定的に供給し続ける上で見られる現況の課題（生産量・流通体制・品質など）の調査を行い、調査結果に基づき具体的な支援策を実施するための枠組み作成を検討する調査研究である。地方自治体や生産者と関連する分野の修理技術者への現状に関する情報発信、関係者を繋ぐ研究会の開催、また、修理技術者への科学的な視点からの基礎的な研修事業を行った。

具体的には以下の事業を遂行した。

1)　彫刻・木質文化財の修理に用いる刃物の製造方法・使用方法に関する記録作成。
4 年度にて途絶した彫刻刃物の生産方法について記録した動画を用いて、映像の編集を行い、現在の記録とした。聞き取り調査の内容と関連づけ、今後の公開活動に使用できる映像の基礎編集を行った。

2)　標津町における紙漉き体験会への協力と今後の研究協議
装潢修理に欠かせない宇陀紙の原材料のノリウツギの生産について協力の申し出のあった標津町にて、宇陀紙生産者の福西氏を招聘して、一般市民向け、および小学生向けに和紙づくり体験学習会が開催され、当研究所も協力した。
また、それに併せて科学的な分析について、今後の研究協力予定を協議した。
開催日：8 月 20 日～21 日
会場　：標津町生涯学習センター（あすぱる）


和紙づくり体験会にて山口将悟標津町長（左）に指導する福西氏（右）

3) 修理技術者への科学的知識基礎研修
当研究所にて開催された「文化財修復技術者のための科学的知識基礎研修」において、現状の用具材料の確保が困難になっている内容を「伝統材料」の講義にて状況の説明を行なった。
開催日：10 月 31 日～11 月 2 日

【実績値】

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3228F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	出土鉄製文化財から探る埋設環境が超長期腐食機構に及ぼす影響(2-(2)-②-8))		
【委託者】	公益財団法人腐食防食学会	【受託経費】	1,540 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター、都城発掘調査部（平城地区）	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

【スタッフ】
和田一之輔(都城発掘調査部（平城地区）考古第一研究室長)、柳田明進(保存修復科学研究室研究員)

【年度実績概要】

・放射性廃棄物を格納するオーバーパック材の超長期腐食寿命予測モデルの妥当性の検証に資する情報を取得するため、平城宮出土鉄製遺物を対象として、鉄製遺物の劣化状態、色調、金属部の残存状況について悉皆調査を実施し、出土位置と劣化状態の関係を整理した。
・平城宮内の埋蔵環境を把握するため、これまでに報告されている地質及び水質調査データをリスト化し、解析した。
・鉄製遺物の状態をより詳細に把握するため、その中から抽出した鉄製遺物について、蛍光 X 線分析、X 線回折分析、X 線 CT を行い、非破壊にて構造調査を実施した。



出土位置と鉄製遺物の劣化状態の関係
青色：劣化が緩慢、赤色：劣化が顕著

【実績値】
事業報告書：1 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3229F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	令和4年度国史跡ガランドヤ古墳における運用手法の検討及び墳丘復元法検討業務(②-9))		
【委託者】	大分県日田市	【受託経費】	405千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター　保存修復科学研究室	【事業責任者】	保存修復科学研究室長　脇谷草一郎

【スタッフ】
柳田明進（保存修復科学研究室研究員）

【年度実績概要】

・ガランドヤ1号墳については、これまで実施してきた保存環境のモニタリング調査を継続して実施した。特に4年度から開始された一般公開が保存環境に対して及ぼす影響の有無について検討を行った。
・ガランドヤ2号墳については、石室内部の石材表面に緑色の藻類が認められたことから、石室内部の照度を低減する措置をとった。この措置による藻類の増減をモニタリングするため、測色計を用いた藻類の簡易定量測定を行った。また、わずかに現地に残る封土を保全する方法として、砂質土による封土の埋め戻しと定期的な散水を計画した。その予備的な作業として封土への定期的な散水と、その後の土壌含水率変化のモニタリング調査を実施した。


ガランドヤ2号墳封土の散水試験

【実績値】
事業報告書：1点
現地調査：4回（6月、8月、11月、5年3月）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3229F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	令和 4 年度史跡闘鶏山古墳の調査保存に資する基礎的調査(②-9))		
【委託者】	大阪府高槻市	【受託経費】	1,400 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター	【事業責任者】	金田明大
【スタッフ】○金田明大（埋蔵文化財センター長)、山口欧志（埋蔵文化財センター研究員）			

【年度実績概要】

4 年度は新型コロナウイルスの影響や機器の調達難による延期を踏まえて、実際の計測作業を行った。

高槻市埋蔵文化財センターに作成された模擬石槨により試験を行い、従来のケーブルガイド方式の結果、安全に計測可能な剛性が確保できなかったことから、テレスコピックのカーボンシャフトとワイヤーを核とした機材を作成し、試験を行い、実際の古墳が開口可能となる 10 月 24 日～31 日において計測を実施した。

いずれの石槨も情報不足による工夫が必要であり、状況が模擬石槨と大きく異なったことから、現地での機材の改良や工夫が必要となり、作業は困難を極めたが、改良の結果、第一石槨については内部へのカメラの挿入と推進を達成し、三次元計測用の画像取得を行うことができた。第二石槨は予想以上に小型の為、作成した機材が使用できず、急遽作成した機材による計測を行ったことから、内部でのカメラを推進しての画像取得はできず、開口部から角度を変えて撮影した。

これらの成果については現在解析を進めている。



作成した機材



試験用の模擬石槨

【実績値】

取得データ

静止画像　871 枚

360 度画像　538 枚

動画　2 セット

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3231E-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2)-②-10) 高松塚古墳・キトラ古墳の恒久的保存に関する調査研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	33,666 千円
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	建石徹（センター長）

【スタッフ】

早川泰弘（副所長）、朽津信明、犬塚将英、秋山純子、早川典子、佐藤嘉則、千葉毅、芳賀文絵、倉島玲央、鳥海秀実、島田潤、西田典由（以上、保存科学研究センター）、片山葉子、宇髙健太郎（以上、客員研究員）、水谷悦子（保存科学研究センター併任、文化財防災センター）

【年度実績概要】

国宝高松塚古墳壁画の恒久的な保存方針に基づき、壁画の修理、修理環境の保全及び壁画の保存・活用に係る調査・研究業務を実施した。

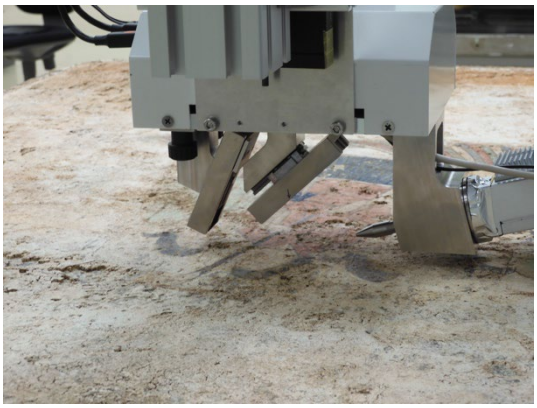
○壁画の制作技法に関する事項

・材料調査班で開発を行った小型 X 線回折分析装置を用いて、奈良文化財研究所とともに、西壁女子群像及び青龍が描かれている壁画の彩色材料の分析調査を実施した。
・今後、壁画の分析調査への適用を検討しているハイパースペクトルカメラの性能評価を目的として、設置方法の検討及び手板試料を用いた基礎実験を行なった。
・高松塚古墳壁画の保存活用に資するため、壁画の模擬試料を複数種作成し、構成部材の耐久性等を検討した。

・壁画の維持管理方針やその具体的内容について、科学的・学術的な助言を文化庁へ行った。また、維持管理の作業内容を検討するため、月に１回程度、修理施設等で文化庁及び関係者との協議を行った。
　修復処置を施した代表的な箇所４点につき、目視状態観察と測色を含めた経過観察を継続的に行なった。
・壁画の修理作業に関する各種データの整理とアーカイブ化を行い、報告書の作成準備を行った。
　また、発見以降の点検時の記録について、包括的な目録化を開始し、各種資料について関係者や専門家による助言を受けた。

○壁画の保存環境の維持管理に関する事項

・高松塚古墳壁画を良好な環境で保存活用するため、修理施設の温湿度、並びに空気質、浮遊粒子、浮遊微生物、付着微生物、並びに落下微生物（年2回）、生息生物のモニタリング調査（年4回）を実施し、適切な保存環境の維持管理を行った。
・高松塚古墳壁画が適切な場所で保存管理・公開が行われることを見据え、これまでの環境調査データをもとにして古墳壁画の保存環境管理指針の策定に関する研究成果を学会にて発表した。


XRD による西壁女子群像の調査

○その他

・4 年度行われた国宝高松塚古墳壁画仮設修理施設（国営飛鳥歴史公園内）の一般公開に際して、延べ 7 名を派遣し、立会い説明等を行った。また、一般公開にあたり新型コロナウイルス対応について助言を行った。
・古墳壁画保存関連の事業全般について情報共有を行い、効率的で正確な作業を行うために、奈良文化財研究所と古墳壁画保存対策プロジェクトチーム会議を二回開催した。
・文化庁主催の「古墳壁画の保存活用に関する検討会」（第 30、31 回）に、奈良文化財研究所とともに事務局として出席した。

【実績値】

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3231E-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務（2－(2)－②－11)－ア)		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	17,431 千円
【担当部課】	保存科学研究センター	【事業責任者】	建石徹（センター長）

【スタッフ】
犬塚将英（分析科学研究室長)、佐藤嘉則（生物科学研究室長)、秋山純子（保存環境研究室長)、早川典子（修復材料研究室長）ほか

【年度実績概要】
特別史跡キトラ古墳から取り出された壁画の保存修復措置に係る資料整備、古墳・壁画の保存・活用に係る調査・研究の業務を実施した。

○キトラ古墳壁画の制作技法に関する事項
・これまでに可搬型蛍光X線分析装置を用いて実施した元素分析調査結果について、データ解析及び調査報告書刊行のための準備を行った。
・十二支のうち泥の下に描かれている可能性が示唆されている辰・巳・申の図像を確認するために、奈良文化財研究所とともに2次元元素マッピングによる分析調査を実施した。
・キトラ古墳壁画の保存活用に資するため、壁画構成部材の物性評価(引張強度・水蒸気吸脱着等温線)を行った。
・保存中の壁画に点検のたびに塵埃が確認されたことから、蓋の作製が急がれていた。2年度に作製した試作品を元に、安全性や通気性などを評価して改良し、基本設計を確定した。また、その設計に沿って、蓋を作製した。

○キトラ古墳壁画の保存環境の維持管理に関する事項
・再構成されなかった漆喰片を含むキトラ古墳壁画（5面）の最適な保存管理方法について、キトラ古墳壁画保存管理施設（キトラ古墳壁画体験館四神の館内）等で、関係者の協議を行い、必要な指示を行った。
・年間4回行われるメンテナンス作業と、毎週の点検作業において報告の多かった埃対策として、蓋を作成する可能性を検討し、試作品内部の環境調査を奈良文化財研究所と連携して行った。
・キトラ古墳壁画の保存管理に最適な設備環境に関し、保存科学・生物学等の観点から、必要な検討を行い、壁画の適切な保存・活用のための知見を提供した。



キトラ古墳壁画の可視光分析調査

【実績値】

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3231F ｱ-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する研究等業務(②-11)-ｱ)		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	37,182 千円
【担当部課】	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原） 埋蔵文化財センター	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部長）、廣瀬覚（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）考古第一研究室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、田村朋美（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）主任研究員）

【年度実績概要】

○高松塚古墳の昭和 47 年出土品再整理作業の一環として、高松塚古墳版築切取資料の台座と収納箱を作製した。
○昭和 47 年出土品再整理報告書作成に向けた整理作業と、出土棺飾金具の取り付け方法の再現の検討を行った。
○高松塚古墳壁画のデジタルアーカイブ作業として、壁画発見時の高松塚古墳再現三次元モデル（石室・墳丘・仮設覆屋）を作成した。また、高松塚古墳周辺地形・関連古墳(植山古墳ほか）の三次元モデルの作成及び、高松塚古墳の石室解体時の映像記録のデジタルアーカイブ化を行った。
○壁画の色料調査に使用する X 線回折分析装置を、安全性の評価及び分析条件の検討を経て、実際に壁画の分析調査に適用した。
○高松塚古墳壁画に使用された材料について科学的に検討するため、3 年度に引き続き可視分光分析を行い、得られた測定データを解析した。
○高松塚古墳壁画及びその他の古墳壁画を安定に保存するための温湿度環境の提案に向け、壁画構成材料の変形特性の評価を進めた。
○新たに建設される保存管理施設へ安全に石室石材を搬送するための基礎データを得るため、3 年度に引き続き施設内で石室石材を移動させた際の振動計測を実施し、その結果を解析した。
○高松塚古墳壁画仮設修理施設において、保存環境を良好に保つため、壁画保管室等の保管環境の管理、壁画の状態観察を行った。
○壁画の経年変化を把握するため、記録撮影を行った。
○文化庁と連携し、年間 4 回の仮設修理施設の一般公開において、研究員を派遣し、高松塚古墳壁画に関する解説を行った。
○仮設修理施設の一般公開時に壁画の図柄の乾拓体験のイベントを秋に行った。また、壁画の顔料に関するリーフレットを作成し、参考資料として配布した。


西壁石(女子群像)の X 線回折分析による調査風景

【実績値】
・X 線回折分析：2 件
・可視分光分析：1 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3231F ｱ-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(2)科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究		
【事業名称】	特別史跡キトラ古墳の保存・活用にかかる研究等業務(②-11)-ｱ)		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	80,083 千円
【担当部課】	文化遺産部 都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区） 埋蔵文化財センター 企画調整部・飛鳥資料館	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大

【スタッフ】清野孝之（都城発掘調査部副部長）、内田和伸（文化遺産部部長）、石橋茂登（飛鳥資料館学芸室長）、脇谷草一郎（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）、若杉智宏（都城発掘調査部主任研究員）、清野陽一（飛鳥資料館主任研究員）、樋口典昭（都城発掘調査部アソシエイトフェロー）、濱松佳生（飛鳥資料館アソシエイトフェロー）、王杰（飛鳥資料館アソシエイトフェロー）、松野美由樹（埋蔵文化財センター保存修復科学研究室アソシエイトフェロー）

【年度実績概要】

・文化庁キトラ古墳壁画保存管理施設の日常的な管理運営を行った。
・キトラ古墳壁画の第 23 回公開（5 月 21 日～6 月 19 日）、第 24 回公開（7 月 23 日～8 月 21 日）、第 25 回公開（10 月 15 日～11 月 13 日）、第 26 回公開（5 年 1 月 21 日～2 月 19 日）の印刷物・解説映像・解説音声等の作成、印刷物発送及びインターネット媒体等への広報提供等を行った。
・壁画非公開期間における展示室公開と新年特別展示「キトラ古墳壁画に込められた思想」（12 月 15 日～5 年 1 月 17 日）を実施し、看視員 1 名を派遣した。キトラ天文図を解説するプラネタリウムイベント 2 回（10 月 27 日～11 月 6 日、5 年 2 月 2 日～2 月 12 日）を実施した。



第 25 回壁画公開の様子

・仮設保護覆屋存在時及び墳丘整備後の状況を再現した VR コンテンツに利用するため、キトラ古墳の現状の周辺地形の 3 次元モデルの作成を進めた。
・キトラ古墳壁画に用いられている色料に関する情報を得るため、可視分光分析を行った。
・泥に覆われたキトラ古墳壁画の十二支像の有無を調査するため、蛍光 X 線分析の 2 次元マッピングを実施した。
・壁画の変化を 3 次元的にモニタリングする手法として、フォトグラメトリーの一つである SfM-MVS 技術について検討を進めた。
・キトラ古墳壁画への蓋の設置を検討するため、モックアップを用いた温湿度測定を実施した。
・キトラ古墳壁画の経年変化を追跡調査するために、高精度カメラによる撮影を行った。
・キトラ古墳壁画の保存と活用に関する取り組みとして、保存管理施設における歩行性昆虫のトラップ調査、環境カビ調査、展示室展示ケースのガス濃度測定、温湿度調査、並びに粉塵量測定を実施した。また、秋の壁画公開期間にあわせて、移動式のプラネタリウムを設置し、「キトラ古墳壁画 天文図と中国星座の世界」の投影イベントを実施した。
・整備後墳丘の維持管理のため、キトラ古墳墳丘法面植栽の経過観察を行った。
・保存管理施設に基本 2 人以上の人員が常駐する体制を整え、施設の出入りと作業に関するマニュアルに則り、空調の設定及び運転状況の確認、施設内の清掃、壁画の目視による状態観察や修理技術者による壁画点検への協力、生物対策、各種業者点検の立ち合いなどの作業を行った。地震、台風、豪雨等の後は収蔵品・施設・墳丘等を目視点検し関係者に情報共有した。また、飛鳥管理センター及び飛鳥歴史公園事務所との日常的な連絡調整、月 1 回の関係者協議参加等の連絡調整作業を行った。キトラ古墳壁画の公開は 4 回実施した。壁画非公開期間においては、看視員 1 名を配置して、展示室の公開を実施し、出土品レプリカや石室模型などを展示した。このほか、保存管理施設のホームページを運営し、施設の紹介、公開等に関する情報を掲載した。

【実績値】

・可視分光分析：1 件
・蛍光 X 線分析：1 件

【受託】　施設名 東京文化財研究所　処理番号 3311E

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3) 文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	文化遺産国際協力コンソーシアム事業（①－1） －ｱ)		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	42,995 千円
【担当部課】	文化遺産国際協力センター	【事業責任者】	文化遺産国際協力センター長　友田正彦（事務局長）
【スタッフ】金井健（国際情報研究室長）、藤井郁乃、邱君妮、前田康記（以上、アソシエイトフェロー）、廣野都未（事務補佐員）			

【年度実績概要】

○文化遺産国際協力に係る諸課題について議論するとともに、各分野の研究者や関係機関との連携を図るために各種会議を開催した。新型コロナウイルス感染症対策から会議等は原則オンラインとしたが、いずれも活発な議論が行われ、必要な連携を図ることができた。また、今後の協力のあり方の検討に資するための情報収集を目的に海外調査を実施した。さらに、文化遺産保護に関する国際協力の活動を広く周知するため研究会（2 回）とシンポジウム（1 回）を開催し、このうちシンポジウムは時勢を捉えて海外専門家を含む対面開催（オンライン併用）で行った。

Ⅰ．コンソーシアムの会議の開催

・運営委員会を 2 回開催し、コンソーシアム全体としての活動方針等を協議した。
・企画分科会を 6 回、東南アジア・南アジア分科会、西アジア分科会、東アジア・中央アジア分科会、欧州分科会、アフリカ分科会、中南米分科会を各 2 回ずつ、計 18 回を開催した（以上、全てオンライン）。

Ⅱ．情報収集

・複数国の協力による文化遺産保護の支援をテーマに、EU や国際 NGO による域内外での多様な活動が実践されているヨーロッパの組織における支援体制についての情報収集を目的とした現地調査を行い、報告書を刊行した。

Ⅲ．情報発信

・コンソーシアム公式ウェブサイトで文化遺産国際協力に関わる活動の周知広報を図った。また、会員向けメールニュース（主催等イベント告知、国内外文化遺産関連イベントの案内等）を配信した。
・研究会「技術から見た国際協力のかたち」「中央ヨーロッパにおける文化遺産国際協力のこれまでとこれから」、シンポジウム「気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのか－」を開催し、動画の公開、報告書の刊行を行った。





シンポジウム　パネルディスカッションの様子

【実績値】

運営委員会の開催：2 回、分科会の開催：(企画分科会 6 回、東南アジア・南アジア分科会 2 回、西アジア分科会 2 回、東アジア・中央アジア分科会 2 回、欧州分科会 2 回、アフリカ分科会 2 回、中南米分科会 2 回）合計 18 回、研究会の開催：2 回、シンポジウムの開催：1 回、研究者の海外派遣：1 回（4 人）海外専門家の招聘：1 回（1 人）

（成果物）

① 報告書『JCIC-Heritage's 2021 Symposium “Maritime Network and Cultural Heritage - People and Objects Connected by Oceans”』(英語版：200 部、5 年 2 月刊行)
② 報告書『Report on the 30th Seminar “Cultural Heritage x Citizen Engagement = Potential for Multi-actors' International Cooperation”』(英語版：200 部、5 年 3 月刊行)
③ 報告書『第 31 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「技術から見た国際協力のかたち」』(日本語・英語版：各 200 部、5 年 3 月刊行)
④ 報告書『第 32 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「中央ヨーロッパにおける文化遺産国際協力のこれまでとこれから」』(日本語版：200 部、5 年 3 月刊行)
⑤ 報告書『令和 4 年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム　気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのか－』(日本語版：200 部、5 年 3 月刊行)
⑥ 報告書『文化遺産国際協力コンソーシアム令和 4 年度国際協力調査　欧州における複数国協力体制およびウクライナ支援動向に関する調査報告書』(日本語版：200 部、5 年 3 月刊行)
⑦ 動画『第 31 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　技術から見た国際協力のかたち』、『第 32 回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会　中央ヨーロッパにおける文化遺産国際協力のこれまでとこれから』、『令和 4 年度文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム　気候変動と文化遺産－いま、何が起きているのか－』(以上、全てオンライン配信)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3312Fア

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(3)文化遺産保護に関する国際協働		
【事業名称】	令和4年度文化遺産国際協力拠点交流事業(ウズベキスタンにおける考古遺産の科学的調査に関する技術移転を目的とした拠点交流事業) (①-2)-ア-(ア))		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	11,860千円
【担当部課】	企画調整部	【事業責任者】	企画調整部長　加藤真二
【スタッフ】加藤真二(企画調整部長)、庄田慎矢(企画調整部国際遺跡研究室長)、村上夏希(同アソシエイトフェロー)、西原和代(同)、田村朋美(都城発掘調査部主任研究員)、山藤正敏(同)			

【年度実績概要】

本事業は、サマルカンドの国際中央アジア研究所(以下 IICAS)及びサマルカンド考古学研究所を現地拠点機関とし、人工遺物と自然遺物に関して、基礎的な整理から最先端の科学的分析手法までの知識やスキルを、現地の若手研究者との共同作業を通じて移転することで、中・長期的に同地における出土遺物の調査研究と保護に役立てることを目的とする。

8月3日、「出土遺物の整理・分析・保管プロセス概論」というテーマで、第1回オンライン研修を行った。研修講師は庄田慎矢、山藤正敏に加え、荻山琴美(大分県立歴史博物館)、エヴァ・ローゼンストック(ボン大学)が務め、パワーポイント資料「発掘調査後の出土遺物に関する作業工程概観」「出土遺物の記録・整理・保管」「保存科学実験室のリノベーション」「考古科学研究室の立ち上げ」をロシア語翻訳、ウズベク語通訳(ロシア語を事前に吹き込みをした動画にウズベク語による通訳をいれた)し、オンライン研修を行った。研修には電子メールやZoomを活用し、学習の支援や習熟度確認を図った。

9月26日～28日、「発掘現場での遺物収集と分析試料採取」をテーマに、第1回現地研修を行った。庄田慎矢、竹田義之(第一合成株式会社)による講義に加え、乾燥ふるい選別法とフローテーション法、土壌選別法によって検出した炭化植物遺存体の観察、土色帖・土色計の利用、カフィル・カラ遺跡及びスリマン・テパ遺跡の発掘調査現場視察などの実習を行った。土壌サンプルの状態及び分析の目的によって試料採取の方法を使い分ける必要があること、サンプリング及び土壌選別法実施時の記録事項、目的に合わせた器具の選択、試料汚染を防ぐための器具の取り扱いなどについて、実技を交えて解説した。手技や工程の意図について活発な質問があり、現地で道具の工夫も行われるなど、手を動かすことで知識を身につけていく実践的なワークショップとなった。研修終了後、次回の現地研修の教材について協議を行った。サマルカンド考古学研究所所蔵資料を実見し、タイル及び陶器片を対象とすることで合意を得た。

11月29日、「蛍光X線分析を用いた文化財調査」というテーマで、第2回オンライン研修を行った。村上夏希による文化遺産の調査研究で最も多用される手法の一つである蛍光X線分析法に関する講義を行った。サマルカンド考古学研究所には本装置の導入予定があるということで、参加者の関心も高く、積極的な質疑応答が行われた。

12月6日～7日、「文化財文化財の状態調査と環境管理」をテーマに、第2回現地研修を行った。村上夏希による「色の見え方と測り方」及び「資料の保存環境」に関する講義に加え、それぞれの講義に対応したハンズオンの実習(測色計を用いたサマルカンド考古学研究所に所蔵されている、コックサライ遺跡、アフラシヤブ遺跡出土タイル・陶磁器試料の分析、虫トラップ、パッシブインディケーター、データロガーを用いた、収蔵庫の環境モニタリングを想定した実技研修)を行った。

5年1月18日～24日に、ウズベキスタンより5名の専門家を招へいし、当研究所、帝京大学文化財研究所、東京文化財研究所などで第1回招へい研修を実施した。



現地研修の様子

【実績値】

【受託】　施設名 アジア太平洋無形文化研究センター　処理番号 3320G-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)-②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究		
【事業名称】	令和4年度無形文化遺産保護パートナーシッププログラム		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	48,986千円
【担当部課】	―	【事業責任者】	所長　岩本　渉

【スタッフ】野嶋洋子（研究担当室長)、外間尹隆（前総務担当室長)、池田明子、井上愛奈、大倉美恵子、岡部政美(以上アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】

(1)アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に関する調査研究

①海外研究機関との連携による研究情報の持続的な収集

・　3年度に引き続きキルギス、フィリピンの機関と連携し、情報収集を実施した。

・　対象地域を中央アジア及び小島嶼開発途上国(SIDS)に移し、新たに情報収集事業を開始した(～6年度)。
中央アジア：ウズベキスタン、カザフスタン、タジキスタン、モンゴル各国の機関と連携。オンラインワークショップ（8月10日開催）を経て、情報収集に着手。
SIDS：バヌアツ、パプアニューギニア、パラオ、東ティモール、フィジー、モルディブ各国の機関と連携を確立。5年2月21日にワーキングセッションをオンライン開催、情報収集ガイドラインを検討した。

・　新たに205件の研究情報をIRCI研究データベースに投入した（5年3月)。

②研究データベースの活用促進に向けた仕組みづくり

・　IRCI研究データベースに国別検索機能を追加し、既存データの文献、研究者、研究機関情報を紐付け、利便性を高めた。データ登録・修正方法など管理面も簡便化した。

③拠点形成による無形文化遺産保護のための研究ネットワーク強化

・　「アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための研究フォーラム」を立ち上げ、Facebookグループも開設した（11月)。

・　アジア太平洋地域の専門家6人による企画委員会を3回開催した（7月25日、10月4日、5年3月23日)。

・　フォーラム最初の企画として、オンラインセミナーを開始した。4年度は以下のセミナーを実施した。

第1回：Community Involvement in ICH Research（12月13日)
第2回：ICH in a Climate of Emergency　(5年3月17日)
第3回：Learning from the initiatives of good safeguarding practices in the 2003 Convention（5年3月23日)


地域ワークショップの模様（(1)-④)

④無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する調査研究

・　3年度に実施したワークシート調査を踏まえ、8か国(インドネシア、日本、バヌアツ、バングラデシュ、フィジー、フィリピン、ベトナム、モンゴル)を対象にオンライン・ワークショップを開催した(8月5日、9月7日)。

・　各国において現地調査が実施された(10月～5年2月)。

(2)無形文化遺産保護及びその研究に関連する国際会議等の開催

①「第11回IRCI運営理事会」(10月28日、オンライン)を開催し、5年度事業計画について承認を得た。

②無形文化遺産保護のためのオンラインセミナーの開催（上記(1)③参照)

(3)無形文化遺産の保護に係るネットワークの構築

①国際会議等への出席

・　'Capacity Building for Safeguarding Intangible Cultural Heritage in Emergencies in Small Island Developing States in the Pacific and the Caribbean'（ユネスコ主催）(4月7日、オンライン)

・　無形文化遺産保護条約政府間委員会第5回臨時会合(7月1日、オンライン)

・　第9回無形文化遺産保護条約締約国会議(7月5～7日、パリ・ユネスコ本部)

・　無形文化遺産保護条約第17回政府間委員会（11月28日～12月3日、モロッコ、ラバト)

・　Regional Consultation on UNESCO Framework for Culture and Arts Education（2月13～14日、オンライン)

②C2センター連携

・　第11回中国C2センター運営理事会（4月20日、オンライン）への陪席

・　第10回C2センター会合(7月8日、パリ・ユネスコ本部）への出席

・　2022年韓国C2センター運営理事会（11月11日、オンライン)への陪席

・　中国C2センター主催の若者向けワークショップへの協力(8月～9月)

③情報公開・普及活動等

・　「IRCI概要2022」「IRCIリーフレット（改定版)」日・英版を制作した。

・　ウェブサイトの定期的更新に加え、Facebookページを開設し（11月)、情報公開に努めた。

・　第17回政府間委員会でIRCIのプロモーション展示を行った（11月28日～12月3日)。

【実績値】国際会議等開催件数：7件（セミナー3件含む)、国際会議等出席件数：6件、ウェブサイトアクセス件数：17,146件(4月1日～5年3月31日)、データベース登録件数：3,026件（5年3月31日時点)、検索件数：5,089件(4月1日～5年3月31日)

【受託】　施設名 アジア太平洋無形文化研究センター　処理番号 3320G-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(3)-②アジア太平洋地域の無形文化遺産保護に関する調査研究		
【事業名称】	令和 4(2022) 年度　ユネスコ未来共創プラットフォーム事業（海外展開を行う草の根のユネスコ活動)「持続可能なまちづくりにおける無形文化遺産の役割に関する国際交流事業」事業		
【委託者】	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター	【受託経費】	3,838 千円
【担当部課】	—	【事業責任者】	所長　岩本　渉
【スタッフ】野嶋洋子（研究担当室長)、佐々木一恵（アソシエイトフェロー)			

【年度実績概要】

9 月 21 日付けで「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」に採択されたことを受け、IRCI 事業「無形文化遺産の持続可能な開発への貢献：持続可能なまちづくりと無形文化遺産」の関係者等を招聘し、国際シンポジウムを開催した（5 年 1 月 31 日-2 月 2 日、開催場所：奈良文化財研究所及び奈良国立博物館)。

［日程］

・5 年 1 月 31 日(奈良文化財研究所)：シンポジウムに先立ち、カンボジア・フィジー・マレーシアの事業関係者による専門家会合を開催し、4 年度実施した予備調査成果及び 5 年度の調査計画について議論した。

・5 年 2 月 1 日(奈良文化財研究所)：国際シンポジウム(対面＋オンラインのハイブリッド形式、日英同時通訳あり)
上記事業で連携するカンボジアのアプサラ・ナショナル・オーソリティー、フィジーのイタウケイ言語文化研究所、マレーシアのジョージタウン世界遺産事務所(George Town World Heritage Incorporated(GTWHI))の専門家に加え、オーストラリア、タジキスタン、ネパール、フィリピン、日本(北海道)からも関係者を招き、SDG ターゲット 11.4(世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する。)達成を視野に、歴史的・文化的景観の保護や管理における無形文化遺産の役割、及び、有形・無形を含めた文化遺産の統合的保護の可能性について、アジア太平洋各地の取り組みや事例をもとに議論した。基調講演は本中奈良文化財研究所長が行った。

・5 年 2 月 2 日(奈良国立博物館)：エクスカーションとして、奈良の文化遺産を活用した新しい SDGs 学習プログラムのあり方について講義を受け、奈良国立博物館 なら仏像館(特別公開 金峯山寺仁王門 金剛力士立像)を見学した。



専門家会合参加者
（5 年 1 月 31 日）



国際シンポジウム・会場の様子
（5 年 2 月 1 日）

【実績値】

シンポジウム参加者総数：83 名
招聘者数：31 名（国内：9 名；国外：22 名)(うちオンライン参加 15 名)
一般参加者数(オンライン)：52 名　(国内：26 名；海外：26 名)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3521F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	明日香村西橘遺跡出土木製品の保存処理等を経ての総合的研究(②-1))		
【委託者】	奈良県明日香村	【受託経費】	200 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（藤原地区）	【事業責任者】	副部長　清野孝之

【スタッフ】
山本崇（史料研究室長)、松永悦枝（考古第一研究室研究員)、田村朋美（主任研究員)、栗山雅夫（企画調整部写真室主任)

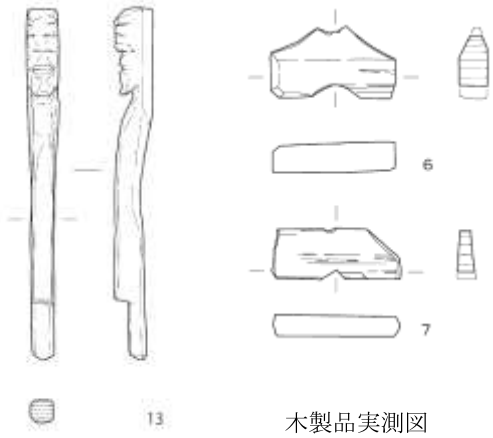
【年度実績概要】
西橘遺跡は、奈良県明日香村に所在する、橘寺旧境内の西に隣接する遺跡である。この遺跡から 7 世紀後半頃と推定される木簡約 270 点、木製品などが出土し、類例の少ない当該期の木簡の中で、まとまった内容を示すものとして注目されている。この事業は、3 年度までに保存処理を完了した木簡に続き、出土木製品について科学的な保存処理を行うことを目的とするものである。

事業の概要は次の通りである。

1)水漬け状態における、材の形状や加工痕跡の観察などを行い、木製品の実測図を作成した。
2)保存処理前の状態を写真で記録した。
3)藤原地区保存科学実験室において科学的な保存処理を実施した。保存処理の方法は、ポリエチレン・グリコール(PEG)を含浸させた上で真空凍結乾燥を行う方法によった。研究期間の関係から、4 年度は PEG 含浸の工程まで実施し、真空凍結乾燥は、5 年度に引き続き行う予定である。
4)PEG 含浸後の遺物の現況を写真で記録した。
5)4 年度に予定された業務について、委託主体である明日香村に研究成果報告書を作成して報告した。なお、3 年度までの木簡を含む西橘遺跡出土遺物の報告は、5 年度に予定されている明日香村刊行の発掘調査報告書において行う。



検討会風景



木製品実測図

【実績値】
・保存処理（PEG 含浸）　32 点
・記録作成　207 点（実測図 41 点、デジタル写真カラー166 点）
・奈良文化財研究所都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区)『明日香村西橘遺跡出土木製品の保存処理等を経ての総合的研究 研究成果報告書（令和 4 年度）』（5 年 3 月）

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3523F

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	考古・文献史料からみた歴史災害情報の収集とデータベース構築・公開ならびにその地質考古学的解析(②-3))		
【委託者】	国立大学法人東京大学地震研究所	【受託経費】	5,838 千円
【担当部課】	埋蔵文化財センター 遺跡・調査技術研究室	【事業責任者】	埋蔵文化財センター長　金田明大
【スタッフ】村田泰輔（埋蔵文化財センター主任研究員)、上椙英之（本部文化財防災センター）			

【年度実績概要】

本事業は、科学技術・学術審議会の建議「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画（第 2 次)」に基づき、地震火山噴火予知研究協議会（以後、予知協議会）からの委託を受け、元年度から 5 か年計画として取り組んでいる。

内容は、考古発掘調査、地質調査、さらに歴史資料から検出される災害情報を収集、調査研究、さらに分類することにより、主に地震・火山噴火に関する近代的な観測データが整う以前の災害履歴を明らかにし、過去の災害発生あるいは被災発生メカニズムの解明に資するデータベースの構築と公開を進めるものである。4 年度の成果は以下の通りである。

1)発掘調査報告貴のデータ抽出、分析、整理作業

3 年度同様、4 年度も発掘調査データから災害痕跡データを抽出する作業を継続し、出上地点、時期、災害類別について精査・整理し、データベースの構築を進めた。遺跡資料及び史資料が古代より継続的に蓄積する近畿圏のうち、京都府と奈良県の発掘調査成果を中心に約 2 万調査地点についてのデータ集成を進めた。とくに 3 年度検証を進めていた長岡宮・京跡（京都府）周辺の地震痕跡と京都盆地西縁にあたる樫原断層との関係は、空中写真判読による南部終端部が、さらに南に延びる可能性を指摘する成果が得られている。現在この成果については、地質データとの対比検証を行いつつ、論文投稿を進めている。また火山噴火災害については、特に桜島大規模噴火対応を目標としてデータ集成作業を進めている。

2)データベース構築 ・ 開発作業

3 年度は、特に長岡宮・京跡での発掘調査成果の集成データから、歴史災害痕跡データベース（以後、災害痕跡 DB）を用いた歴史災害痕跡の視覚化とその有効性について検討を進めた（図 1)。とくに視認有効性については科研費（挑戦（開拓）18H05306）研究と合わせ、視認しやすい表示マーカーの開発し色覚弱者への対応を進めている。この視認有効性は全国的なアンケート調査を行い（被験者 200 名程度)、その成果をもとにデザイン開発を進めている。

災害痕跡の分布については、3 年度より明らかとなってきた京都盆地西縁にあたる樫原断層との関係において、空中写真を用いた地形判読によって想定される分布よりも、はるかに南に延伸する可能性が出てきている（図 1)。3 年度指摘した地形傾斜変換点付近での地質の脆弱性や、軟弱な泥質堆積物に被覆された沖積平野に埋没する同様の地質構造の存在の可能性もより明確となり、潜在化した地震ハザードの「見える化」における有効性をさらに示したといえる。本成果は、京都府全体の防災計画にとって重要なだけでなく、災害痕跡 DB の全国的な活用の重要性を示唆したといえる。



図 1　災害痕跡 DB による潜在的な地震ハザードの「見える化」

3)発掘調査現場における災害痕跡の調査、試料採取・分析

平城宮・京、藤原宮（以上、奈良県)、門田遺跡（京都府）の現地調査を行い、検出された地震痕跡等について調査を進め、被災時期の特定方法の改善を進めた。また 3 年度に調査した遺跡群については報告書執筆を行った。

【実績値】

[1] Taisuke MURATA, The Construction of the Historical Disaster Evidence Database and its Effectiveness. JDR Vol.17 No.3 pp. 420-429 (4 月)

[2] 村田泰輔、「歴史災害痕跡データベースの構築とその有効性」、『第 1 回日本災害・防災考古学会研究会資料・予稿集』、pp.41-50。(9 月)

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-1

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	第一次大極殿院建造物復原整備他にかかる調査委託(③-1))		
【委託者】	国土交通省近畿地方整備局国営飛鳥歴史公園事務所	【受託経費】	10,000 千円
【担当部課】	都城発掘調査部（平城地区） 企画調整部	【事業責任者】	都城発掘調査部長　箱崎和久

【スタッフ】
箱崎和久（都城発掘調査部長兼遺構研究室長)、今井晃樹（同部平城地区考古第三研究室長)、西田紀子（同部平城地区主任研究員)、鈴木智大（同部飛鳥・藤原地区主任研究員)、山崎有生・目黒新悟（以上同部平城地区遺構研究室研究員)、福嶋啓人（同部飛鳥藤原地区遺構研究室研究員)、中村一郎(企画調整部写真室専門職員)、飯田ゆりあ（同部主任)、鎌倉綾(同部技術補佐員)

【年度実績概要】
本事業は、第一次大極殿院地区の整備に伴う復原検討及び公開・活用を行う国土交通省からの受託研究である。
復原検討部分は、奈良時代前期（Ⅰ-2 期）の第一次大極殿院を構成する各建物のほか、地形や諸施設等について往時の形態を復原するのが目的である。4 年度は、以下の業務を実施した。

①第一次大極殿院復原研究の成果を示す報告書の本文編・図版編の作成を進めた。
②東楼復原工事への助言と協力を行った。
・東楼復原工事に伴う定例会議に参加し、適時に専門的視点からの指導・助言を行った。
・定例会議に先立つ勉強会で講師を務めた。
・東楼の瓦製作や納まりについて専門的観点からの助言を行った。出土瓦見学会を 2 回開催した（図参照)。
・定期的に工事進捗状況等を写真撮影し、写真データを整理・保存した。
・第一次大極殿院東楼のボランティア研修資料の作成に協力した。
・第一次大極殿院復原整備の意義等について、国交省へ助言した。
・東楼の復原整備工事に用いる木材の検査を視察した。
・国交省の広報物作成に協力した。



第 2 回　出土瓦見学会（12 月 9 日）

【実績値】
・東楼復原整備工事勉強会：3 回
箱崎和久「平城宮跡の整備と復原」(7 月 7 日)、箱崎和久「東楼と西楼の発掘調査成果」(8 月 4 日)、浦蓉子「平城宮跡で発掘された木材の見学」(9 月 15 日)、箱崎和久「東西楼の復原」(10 月 6 日)
・出土瓦見学会：2 回（9 月 1 日、12 月 9 日)。
・論文等数：1 件
李暉「平城宮第一次大極殿院建築木口金具の復原意匠における製作実験の検証」『奈文研論叢 V』(5 年 3 月)
・国土交通省等からの問合せ等への対応：35 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-2

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	平城宮いざない館詳覧ゾーンにかかる学芸業務及び解説案内等業務(③-1))		
【委託者】	一般財団法人　公園財団飛鳥管理センター	【受託経費】	5,404 千円
【担当部課】	企画調整部　展示企画室	【事業責任者】	岩戸晶子（企画調整部展示企画室長）

【スタッフ】
廣瀬智子（展示企画室アソシエイトフェロー)、下山千尋（展示企画室アソシエイトフェロー)・藤田由香里（展示企画室アソシエイトフェロー)

【年度実績概要】
・当研究所から貸し出している展示資料（常設）の継続的な状態確認と日報の作成を行った。
特に、井戸部材（廊下）と斎串・木樋（展示室 4）については、埋蔵文化財センター、都城発掘調査部担当者と協議しつつ、状態確認・展示環境のモニタリングを重点的に行った。
・新型コロナウイルスの拡大予防策として、ハンズオン展示の中止・再開について管理センターと協議・調整。
・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正を行った（4 件)。
・当研究所へあった所蔵物の貸出依頼及び都城調査部依頼の調査研究に応じ、展示室 4 の展示物の取り出し・搬出、返却後の原状復帰を行った(50 件)。
・東京の奈良まほろば館にて平城宮管理センター主催木簡体験イベントにおいて解説等協力実施した（7 月 8 日)。
・平城宮いざない館にて企画展「のこった奇跡のこした軌跡－未来につなぐ平城宮跡－」を開催した（10 月 29 日～12 月 11 日)。
・上記特別展に関して報道機関対象のレク実施（10 月 28 日)、その後も報道各社の取材に対応した（2 件)。
・上記特別展に関して平城宮跡解説ボランティア及び NPO 法人平城宮跡サポートネットワークに対しレクを実施した（10 月 28 日、29 日)。
・上記特別展に関して、展示した隼人の楯に関する京田辺市無形文化財の隼人舞を紹介するイベント及びギャラリートークを実施した。(10 月 29 日)
・ニコニコ動画 ニコニコ美術館チャンネルにて平城宮跡及び平城宮いざない館展示室並びに上記特別展の解説・案内を生配信した（11 月 12 日)。
・依頼のあった来館者等の案内、ボランティアガイド・来館者などからの質問、展示室 4 に関わるマスコミ・テレビ・新聞社等の取材に対応した(32 件)。
・平城宮跡管理センターと京産大との官学連携事業等への専門的助言を行った。
・奈文研での「平城宮跡の活用の実践的研究」の一環として、文化遺産部、都城調査部と共に出土遺物にちなんだ体験プログラムの企画・監修を行った。3 年度に引き続き、古代の盤上遊戯であるかりうちをテーマにしたイベントを、平城宮跡管理センターと共催で実施した(11 月 26 日)。
・平城宮跡いざない館各展示室の美術清掃・展示品修理に立会った(11 月 14 日・5 年 2 月 13 日)。
・平城宮跡いざない館展示室 4 の展示環境の管理の一環として、展示ケース内の調湿剤の交換と管理センター施設係と情報共有しつつ実施した(11 月 14 日)。
・平城宮跡史跡指定 100 周年記念ツアーガイドを NPO 法人平城宮跡サポートネットワークと共催した(12 月 10 日)。
・平城宮跡歴史公園 5 周年記念展「よろしく都邑を建つべし」展（会期：5 年 3 月 25 日～5 月 14 日）を管理センターと共催し、奈文研所蔵資料の選定及び貸出、展示作業、記者レク実施などに協力した。

【実績値】
・企画展入館者数　36,339 人
・当研究所へあった所蔵物の貸出依頼、及び都城調査部依頼の調査研究に応じ、展示室 4 の展示物の取り出し・搬出、返却後の原状復帰　50 件
・ニコニコ動画 ニコニコ美術館チャンネルにて平城宮跡及び平城宮いざない館展示室並びに上記特別展の解説・案内を生配信　視聴者数 延べ 27,041 人
・依頼のあった来館者等の案内、ボランティアガイド・来館者などからの質問、展示室 4 に関わるマスコミ・テレビ・新聞社等の取材への対応　33 件
・平城宮跡いざない館発行の印刷・出版物の監修・校正　4 件

【受託】　施設名 奈良文化財研究所　処理番号 3531F-3

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	(5)地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等		
【事業名称】	特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内における歴史的環境維持業務(③-1))		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	16,104 千円
【担当部課】	研究支援推進部研究支援課	【事業責任者】	研究支援課長　不藤　忠義

【スタッフ】
岡本保彦(研究支援課係員)、新開良子（事務補佐員)、他２人

【年度実績概要】
特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内において文化庁の整備管理事業の実施に関し、技術的提案、助言を行い、遺跡の保存、公開及び活用への環境整備の円滑な実施を図った。

1. 特別史跡平城宮跡地内及び藤原宮跡地内における不具合対応策提案業務の実施を行った。
－1　環境維持、宮跡内施設等の安全確保のための対策提案
○復原施設、遺構表示、便益施設設備の状況観察及び故障等不具合があった場合の対応策提案、対応手配等協力
①　平城・藤原宮跡国有地排水改善対応への助言
②　平城宮跡第一次大極殿免震装置点検への助言
③　平城宮跡木製橋修理対応への助言
④　平城・藤原宮跡内工作物（柵・車止め等）維持への助言
⑤　平城宮跡内外灯・防犯設備等維持への助言
⑥　平城・藤原宮跡内植栽管理への助言
⑦　平城・藤原宮跡国有地管理への助言　ほか
－2　緊急事案発生への対応提案
○事件、事故等緊急事案対応への対応策提案、対応手配等協力
①　平城宮跡内危険箇所表示対応
②　平城宮跡内水路増水対応
③　平城・藤原宮跡内倒木対応
④　平城宮跡公開施設設備故障対応　ほか


藤原宮跡醍醐池フェンス整備状況

2. 特別史跡平城宮跡及び藤原宮跡地内の文化庁発注の草刈り業務の管理を行った。
○計画及び実施工程等の調整
○施工箇所の点検・確認
○事前の調整（地元自治会等への説明、要望への反映）
○周辺住民等からの要望・苦情の聴取
○聴取内容、施工箇所変更などの業者への伝達


草刈り業務施工箇所の点検・確認状況

3. 平城宮跡及び藤原宮跡における整備、改修・修繕等の実施にかかる調整対応を行った。
○計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認
①　平城宮跡第一次大極殿ほか復原施設便益施設修繕及び設備更新等
②　平城宮跡木橋改修整備
③　平城宮跡兵部省・式部省改修整備
④　平城宮跡遺構表示改修工事
⑤　平城宮跡案内サイン更新整備
⑥　藤原宮跡仮設水路改修整備
⑦　藤原宮跡醍醐池フェンス等更新整備
⑧　平城宮跡藤原宮跡ベンチ更新整備
⑨　平城宮跡（植栽剪定）
⑩　藤原宮跡（植栽剪定）ほか


平城宮跡国有地排水改善状況

【実績値】
1－1　不具合対応策提案及び整備管理業務の実施（対応策提案件数　1,242 件）
1－2　緊急事案発生への対応提案（対応提案件数　0 件）
2－1　草刈り業務管理の実施　平城宮跡　草刈り対象面積 776,298.96 ㎡・藤原宮跡　草刈り対象面積 489,530.82 ㎡
（地元要望調整等対応件数 47 件）
2－2　計画及び実施工程等の調整、施工箇所の確認（調整対応件数　254 件）

【受託】　施設名 文化財防災センター　処理番号 3630

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(6)文化財防災に関する取組		
【事業名称】	被災美術工芸資料等安定化処理及び修理業務		
【委託者】	陸前高田市	【受託経費】	15,400 千円
【担当部課】	文化財防災センター	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成
【スタッフ】小谷竜介（文化財防災統括リーダー）、後藤知美（研究員）、黄川田翔（研究員）、小峰幸夫（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）			

【年度実績概要】

東日本大震災で被災した陸前高田市所有の博物館資料について、資料の活用と恒久的保存に資することを目的とし、美術工芸資料の安定化処理および修理ならびに資料の保存環境に関して、以下の事業を実施した。

（1）美術工芸資料の安定化処理および修理
・事前調査及び協議の実施（8 月 23 日～24 日・9 月 15 日～16 日）。
陸前高田市博物館（旧生出小学校）にて修理事業に実施にあたっての事前調査及び協議
・木材加工関連資料の安定化処置：金属製品のうち錆の発生が確認された資料について錆落としと防錆処理を実施。
・横田膏関連資料の修理：劣化が認められた資料について修理を実施。
・漆製品の修理ワークショップの実施：剥落止め等、漆製品に係る応急処置についての技術移転を実施。

（2）資料の適切な維持管理に向けた保存環境の調査及び整備
・事前協議の実施（9 月 15 日・16 日）
陸前高田市博物館(旧生出小学校)にて、環境調査実施にあたっての事前協議を実施。
・環境調査の実施（文化財害虫等生育状況：年 3 回、微生物生息状況：12 月、室内汚染物質濃度：12 月）
・除塵清掃の実施（図書室収蔵庫：12 月、屋外収蔵庫：5 年 3 月）
・今後の保存環境構築の提案：調査結果をもとに、適切な保存環境構築に向けた今後の取り組みを提案。


陸前高田市との打合せ風景


環境測定（ATP 測定）の様子

【実績値】
ａ）安定化処置及び修理資料
　木材加工関連資料：36 点、横田膏関連資料　22 点
ｂ）環境保全
　環境調査：1 回、除塵清掃：2 箇所、環境維持に関する現地協議：2 回

【受託】　施設名 文化財防災センター　処理番号 3650

業務実績書(受託事業)

中期計画の項目	2-(6)文化財防災に関する取組		
【事業名称】	令和4年度文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務		
【委託者】	文化庁	【受託経費】	31,833千円
【担当部課】	文化財防災センター	【事業責任者】	センター長　髙妻洋成

【スタッフ】小谷竜介（文化財防災統括リーダー）、山野善紀（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、上椙英之（研究員）、鶴岡典慶（客員研究員/京都女子大学家政学部教授）、大林潤（奈良文化財研究所文化遺産部建造物研究室長）、島田敏男（同文化遺産部特任研究員）、高田祐一（同企画調整部文化財情報研究室主任研究員）、中村一郎（同企画調整部写真室専門職員）

【年度実績概要】

（1）要デジタル化資料総量の把握

・公益財団法人文化財建造物保存技術協会（文建協）所蔵資料調査（6月29日-7月1日）

・推定総量の算出（文建協約2,200,000枚、総計約3,200,000枚と推定）

（2）デジタル化対象資料・デジタル化手法の再検討･文化財防災のための詳細資料保存に係る調査等業務第2回担当者協議会（8月3日）

・参加機関：文化庁、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県文化財センター、公益財団法人文化財建造物保存技術協会

・文化庁及び資料所蔵機関による本事業の具体的な手法等を話し合う会議を実施した。

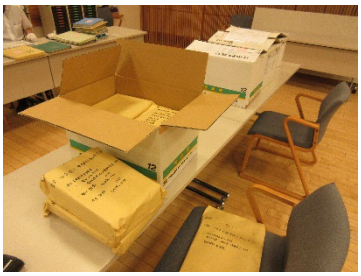
・メタデータの記入方法の簡略化とデジタル化対象資料の絞り込みを決めた。

（3）デジタル化の実施

・和歌山県文化財センター所蔵の図面、野帳、写真・フィルム、書類等のデジタル化

・デジタル化データに対するメタデータ記入

・滋賀県所蔵ガラス乾板のデジタル化



公益財団法人文化財建造物保存技術協会資料調査の様子



第2回担当者協議会はオンライン併用で開催



スキャン完了資料の一部

【実績値】

・総スキャン件数：　79,981件

　内訳：書類54箱分・野帳49箱分・図面36箱分・写真291冊分

・ガラス乾板のデジタル化974枚